

エチゼンミスミソウ

Hepatica nobilis Schreb. var. *japonica* Nakai f. *lutea* Kadota
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

2006年にミスミソウの新品種として発表された。既知の生育地点は1箇所である。これまでに県外からの報告がなく、県内での生育地が限られているため、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

山地の落葉樹林下に生える多年草。根出葉は長い柄があり厚く、褐色を帯びた緑色。葉身は三角状卵形で3つに切れ込み、裂片の先はやや尖る。3～4月頃、花茎を出し、直径1～1.5cmの花を頂生する。花弁は無く、萼片は花弁状で黄色。

分布

福井県越前町でのみ確認されている。

生育を脅かす要因

生育地の開発。植生遷移による生育環境の悪化。園芸目的の採取。現在の生育地が急斜面であるため、自然災害による被害も危惧される。

参考文献 佐竹義輔ほか(1982b)、門田裕一(2006)、岩槻邦男ほか(2006)
若杉孝生(2011)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○										

マンセンカラマツ

Thalictrum aquilegifolium L. var. *sibiricum* Regel et Tiling
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

既知の生育地点は6箇所である。今回の調査では、1箇所の生育地において、10～50個体の生育が確認された。環境省レッドリストでは絶滅危惧ⅠB類に選定されており、県内での生育地も限られているため、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

山地帯～高山帯の開けた草地に群生する多年草。茎は高さ50～120cmになり、上部は良く分枝する。茎葉は3～4回3出複葉で、托葉は大きく膜質で、小托葉も目立つ。カラマツソウに似るが、瘦果は10個以下、倒卵形で先は切形。

分布

本州～九州に分布する。県内では嶺北地方で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である草地の開発。植生遷移による生育環境の悪化。現在の生育地は人為的な影響を受けやすく、環境の変化が危惧される。

参考文献 佐竹義輔ほか(1982b)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
										○	○			○		○	○

キンバイソウ

Trollius hondoensis Nakai
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は2箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が亜高山に限られているため、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

山地の林縁や草地に生える多年草。茎は直立し、高さ40～80cm、上部で分枝する。根出葉と茎葉の下部のものには長柄があり、上部の茎葉には短柄があるか無柄。7～8月頃、茎頂に直径3～4cmの花を3～5個つける。花弁は雄蕊よりも長い。

分布

本州中部地方と伊吹山に分布する。県内では若狭町(1932年)と大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である亜高山の植生の変化。温暖化による生育地の減少。園芸目的の採取。とくに、登山道整備での注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔ほか(1982b)、福井県植物研究会(1998)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○															○	